

ニュース・レター

No. 44 2022 年 3 月

目次

理事長挨拶	1 頁
2021 年度総会議事録	2 頁
2021 年度総会・研究会報告	7 頁
2020 年度日本選挙学会賞	17 頁
『選挙研究』目次	18 頁
各委員会からのお知らせ	19 頁
理事会だより	23 頁
理事会議事録	24 頁
事務局だより	34 頁

「with コロナ」と日本選挙学会

池谷 知明

新型コロナウイルス感染症が拡大してから 2 年以上が経過しました。緊急事態宣言やまんえん防止等重点措置が何度も発出され、社会活動は大きく制限されました。日本選挙学会の運営もその影響を免れませんでした。2020 年の総会・研究会については、高知工科大学・高知県立大学での当初予定していた 5 月開催を 12 月に延期したものの、結局現地での開催は断念せざるを得ませんでした。2021 年の総会・研究会も金沢での開催を見送り、オンラインで行いました。会員みなさまのご協力もあり、大過なく実施できたことについて御礼申し上げます。オンライン開催のノウハウを身につけたことを含め、会員みなさまの研究成果の発表、また、交流ができたことは喜ばしいことでしたが、画面越しの交流にはやはり物足りなさ、もどかしさを感じました。

新型コロナウイルス感染症の終息は未だ見えていません。しかし、社会全体が経済活動、社会活動に重点を移す、言わば「with コロナ」の状況に入ることを受けて、5 月 7、8 日に開催を予定している総会・研究会は、感染対策を徹底しながら石川県文教会館・金沢商工会議所会館にて行うことを理事会で決定しました。懇親会は見送らざるを得ませんが、ぜひ多くの会員にご参加いただき、3 年ぶりの直接的な交流の機会を持っていただければと思います。現地にいらっしゃられない会員の方はオンラインでご参加ください。

コロナ禍において選挙も大きな影響を受けました。想定外の事態の進行によって、これまでの制度がうまく機能しないことが浮き彫りになりました。私自身もいくつか取材を受けましたが、例えば隔離された感染者、濃厚接触者の郵便投票制度が整備されたものの、制度が複雑で、また、選挙運動期間が短いこともあって選挙権行使が極めて厳しかったこと、あるいは在外投票制度においても投票がかなわなかった有権者が多数いたことなどが報道されました。これらを含め、より良い制度をどのように構築していくべきか、会員のみなさまの知見に期待が寄せられるところです。

選挙制度と言えば、選挙学会の公選理事候補者選出選挙の制度を変更しました。より分かりやすい、投票しやすい制度への移行をめざした改革でしたが、会費納入期間を1ヶ月後ろ倒しにすることができ、有権者も増大したことで一定の成果を上げたと考えています。年齢別選挙区を廃止しましたが、選出された理事の年齢について、これまでの基準を適用すると、若手、年長が半数ずつとなりました。会員のみなさまのバランス感覚が示されたものと思います。

現理事会の任期もわずかになりました。選挙制度改革は実現したものの、『選挙研究』の充実、会員増などの課題は解決できず、次期理事会にお願いすることになります。理事長として力不足を痛感する次第ですが、5月の総会・研究会を成功させるべく、最後まで全力で職務に当たりたいと思います。みなさまと金沢でお会いできますことを楽しみにしております。

(いけや ともあき・早稲田大学教授)

[目次へ](#)

2021 年度総会議事録

2021 年度の総会は、2021 年 5 月 8 日（土）に石川県文教会館にて開催予定でしたが、新型コロナウイルスの影響拡大に伴い現地開催を中止とし、オンライン形式の総会を行いました。

日 時：2020 年 5 月 8 日（土）

場 所：オンライン（zoom 利用）

議事

遠藤晶久事務局長より、総会資料の案内、オンライン開催の経緯が説明された。また、総会のレコーディングを行うことについて異議なく承認された。

1. 理事長挨拶

池谷知明理事長より挨拶があり、本総会の議題にも挙がっている日本選挙学会が抱える課題について、説明があった。

2. 前理事長挨拶

品田前理事長より挨拶があり、前年度総会・研究会が対面実施できなかったこと、中止を余儀なくされたことについて経緯の報告とお詫びと関係者へのお礼が述べられた。また、前回の理事会選挙において不手際があり 2 名の会員が投票できなかったことについてのお詫びが述べられた。

3. 各委員会活動報告

■ 企画委員会

西川賢 2021 年度企画委員長より、研究会の進行について報告があった。

飯田健 2022 年度企画委員長より、報告公募を近く始める旨が報告された。

■ 年報編集委員会

竹中佳彦 2020 年度年報編集委員長より、『選挙研究』第 36 巻第 1 号・第 2 号刊行の報告と、それぞれについて訂正が必要であったことについてお詫びがあった。

安野智子 2021 年度編集委員長より、第 37 巻第 1 号の編集状況について報告があった。

奥健太郎 2022 年度編集委員長より、編集委員の承認を終えたことの報告があった。

■ 査読委員会

日野愛郎査読委員長より、査読状況（合計 13 本が査読プロセスを経た／経ていること）について報告がなされた。また、新たに設けられた資料論文のカテゴリーについて説明・周知がなされた。

■ 選挙管理委員会

井田正道選挙管理委員長より、本年秋に理事候補者選挙があること、本総会で承認された場合は選挙制度改革がありスケジュール変更の可能性があること、会費の納入が投票資格になることが説明された。

4. 2020 年度決算・監査報告

事務局長より、2020 年度決算について報告があった。実態として昨年度末時点の資産が昨年度決算報告の資産よりも多いことが確認されたため、昨年度決算の次年度繰越金について修正をしたうえで決算を行ったことが報告された。

境家史郎監事より、適正に予算執行がなされていた旨が報告された後、決算は原案通り承認された。

5. 2021 年度予算案

事務局長より、2022 年度予算案についての説明があり、原案通り承認された。

6. 2022 年度総会・研究会の開催について

岡田浩開催校理事より、2022 年 5 月 7 日（土）、8 日（日）に石川県文教会館と金沢商工会議所会館で開催予定であることが報告された。

7. 2023 年度総会・研究会の開催について

事務局長より、2023 年度は東京開催の年であり現在開催校を打診していることが報告された。

8. 理事選挙制度の変更について

事務局長より、理事選挙制度に関する検討の経緯と変更点についての説明があった。現在の選挙制度の問題点について、年齢別選挙区における少数得票での当選、事務作業負担の大きさが指摘され、年齢別選挙区制度の廃止、3 名連記選挙の採用、選挙人名簿確定時期の変更（8 月 1 日会費支払期限）を柱とする変更案の説明があった。

理事長より、本変更案についての趣旨が説明された後、原案通り、承認された。

9. 2020 年度日本選挙学会賞発表・授与式

事務局長より、昨年度の研究会がオンライン掲示の形式で開催されたため、優秀報告賞および優秀ポスター賞は選出せず、優秀論文賞のみが選出されたことが報告された。

建林正彦学会賞選考委員長より、学会賞の受賞者が以下の通り報告された。

・優秀論文賞

勝又裕斗「中選挙区制における得票均衡の検証のための新指標」

池谷理事長より表彰があり、受賞者の勝又裕斗会員から挨拶があった。

10. その他

遠藤事務局長より、現在の会員数について 448 名（うち法人会員 1）であることが報告された。

2019 年度第 3 回理事会議事録中に記載されている、2019 年に実施された理事候補者選出選挙における瑕疵の記述について、前回および今回の総会でも詳細な報告や説明、謝罪がなかったという指摘があった。この点について、品田前理事長より昨年度総会資料に基づき説明、謝罪がなされた。また、事務局長より今後の実施については今まで以上に注意を払うことが述べられた。

2019 年度 決算案

収 入		支 出	
	(円)		(円)
前年度からの繰越金	8,133,656	総会・研究会費	650,000
寄付（櫻田会）	1,400,000	委員会・事務局活動費	12,900
年会費	3,260,000	通信費	168,229
委員会活動費・総会・研究会返却費	621,471	ウェブサイト作成・開発費	407,220
利子	23	謝金	0
		国際交流費	0
		学会賞賞金	120,000
		印刷費	3,017,504
		文具代	50,828
		雑費	6,710
		次年度への繰越金	8,981,759
合 計	13,415,150	合 計	13,415,150

年報発行準備金

収 入		支 出	
前年度からの繰越金	(円) 10,259,498	次年度への繰越金	(円) 10,259,587
受取利息	89		
合 計	10,259,587	合 計	10,259,587

2021 年度 予算案

収 入		支 出	
項目	金額	項目	金額
	(円)		(円)
前年度からの繰越金	8,981,759	総会・研究会費	200,000
寄付（櫻田会）	1,400,000	委員会・事務局活動費	550,000
年会費（8000 円×400 名）	3,200,000	通信費	200,000
利子	20	ウェブサイト作成・開発費	500,000
委員会活動費返却分	100,000	学生アルバイト費	60,000
		謝金	20,000
		国際交流費	0
		学会賞賞金	150,000
		印刷費	3,000,000
		文具代	50,000
		雑費	10,000
		次年度へ繰越金	8,941,779
合 計	13,681,779	合 計	13,681,779

2021 年度総会・研究会報告

[目次へ](#)

2021 年度日本選挙学会総会ならびに研究会は、2020 年 5 月 8 日（土）・9 日（日）に石川県文教会館・金沢商工会議所会館にて予定されていましたが、新型コロナウイルスの影響拡大に伴い現地開催を中止とし、オンライン開催で実施しました。

【第 1 日目】 5 月 8 日（土）

◆分科会 A・B・C（10:00～12:00）

【分科会 A（社会心理部会 1）：現代政治を動かす社会心理：脅威・不安・集団間関係】

◇司会者

小林哲郎（香港城市大）

◇報告者

中越みずき（関西学院大）

「ジェンダーステレオタイプは女性政治家にとって「有利」に働くか：相補的ステレオタイプの観点に基づく検討」

縄田健悟（福岡大学）・宮島健（奈良大学）・藤村まこと（福岡女学院大学）・大賀哲（九州大学）

「政治的イデオロギーと敵-味方を分ける集団間分断思考：集団間紛争の視点から」

谷口尚子（慶應義塾大学）・Plamen Akaliyski（慶應義塾大学）・Joonha Park（名古屋商科大学）

「コロナ禍における人々の『不安』と政治的アクター評価－『危機における価値変容（Values in Crisis）』国際比較調査第 1 波の結果から」

◇討論者

小椋郁馬（ジョージタウン大）・平野浩（学習院大）

【分科会 B（法律・制度部会）：代表と選挙：代表制論を拓く】

◇司会者

新井誠（広島大）

◇報告者

水林翔（流通経済大）

「代表制と選挙—憲法「論」から考える」

吉川智志（帝京大） ※報告は中止になりました

「代表制論の中の選挙競争—憲法学の視点から」

湯浅壘道（情報セキュリティ大学院大）

「ICT 技術と代表制」

岡田順太（独協大）

「「選挙制を疑う」を疑う—直接民主制と抽選民主制に関する憲法的考察」

◇討論者

只野雅人（一橋大）

【分科会 C（政治参加部会）：政治参加研究の新展開】

◇司会者

坂本治也（関西大学）

◇報告者

秦正樹（京都府立大）

「スキャンダルはスキャンダルで隠す？：サーベイ実験による投票後悔の検証」

山本英弘（筑波大）

「暮らし向きの認知と政治参加」

太田昌志（早稲田大）

「話し合い活動のかくれたカリキュラムが子どもの政治的疎外意識に与える影響——小学
6年生・中学1年生に対する質問紙調査の分析から」

◇討論者

善教将大（関西学院大）・中谷美穂（明治学院大学）

◆**理事会**（オンライン、12:05～12:55）

◆**分科会 D・E・F（13:00～15:00）**

【分科会 D（比較政治部会 1）：実験的手法の発展と応用】

◇司会者

善教将大（関西学院大）

◇報告者

安中進（早稲田大）・加藤言人（ナザルバエフ大学）

「天皇の発言が政治的選好に与える影響の検証：表現の自由の場合」

井上彰（東京大）

「実験政治哲学は何を目指すのか：〈公衆の目〉トロリー実験を題材に」

岡田勇（名古屋大）・柳至（立命大）・久保慶明（琉球大）

「コロナ禍での社会規範の形成：結婚式への参加に関するサーベイ実験」

村上剛（立命館大）

"Comparing the Effects of Candidates' Ethnicity on Voting under FPTP and CLPR."

◇討論者

谷口尚子（慶應義塾大）・秦正樹（京都府立大）

【分科会 E（社会心理部会 2）：メディアの政治的影響とその効果】

◇司会者

三浦麻子（大阪大）

◇報告者

劉凌（早稲田大）・小林哲郎（香港城市大）

「選択的接触の地域差とメディア信頼 -日港米の比較実験研究を通して-

稲増一憲（関西学院大）

「マスメディアに「影響される」のは自分ではなく誰なのか」

梅田道生（駒澤大）

「日本の報道各社による選挙情勢報道を統合した選挙結果予測」

◇討論者

横山智哉（金沢大）・千葉涼（早稲田大）

【分科会 F（方法論部会 1）：選挙研究におけるベイジアン・アプローチの応用】

◇司会者

飯田健（同志社大）

◇報告者

小椋郁馬（ジョージタウン大）

"Measuring Political Knowledge with Online Surveys"

矢内勇生（高知工科大）・宋財沄（同志社大）

"Integrating Research on Voting Behavior in Japan: A Meta-analysis"

◇討論者

鎌原勇太（横浜国立大）・三輪洋文（学習院大）

* 報告論文および報告言語は日本語

◆共通論題「計算社会科学の進展と政治学への波及・応用」（15:15～17:45）

◇司会者

西川賢（津田塾大）

◇報告者

石井晃（鳥取大）・岡野のぞみ（鳥取大）・山本仁志（立正大）・西川賢（津田塾大）

「オピニオンダイナミクスと政治学への応用」

笹原和俊（東工大）

「エコーチェンバーと政治的イデオロギーの分断」

瀧川裕貴（東北大）・呂沢宇（東北大）

「ディープラーニングによるセンチメント分析の社会科学における応用」

三浦麻子（大阪大）・小森政嗣（大阪電気通信大）

「位置情報ゲームの POI（Point of Interest）密度と地域居住者の社会心理諸指標の関連」

◇討論者

阪本拓人（東京大）・前嶋直樹（Sansan 株式会社／東京大学大学院人文社会系研究科）

◆総会（オンライン、18:00～18:45）

【第 2 日目】 5 月 9 日（日）

◆分科会 G・H・I（9:30～11:30）

【分科会 G（国際交流部会）：Studies on Taiwanese Elections and Politics】

◇司会者

Masahisa Endo (Waseda U.)

◇報告者

Yu, Ching-Hsin (National Chengchi University), Tsong-jyi Lin (Tamkang University).

"Taiwan Citizens' Attitudes toward the Taiwan-US-China Triangle Relation."

Su-Feng Cheng (National Chengchi University), Tsai Tsung-han (National Chengchi University).

"The Effects of Incumbent on Campaign Promises: A Study of Taiwanese Legislative

Election in 2020.”

Lin, Chao-Chi (National Chengchi University), Chiung-Chu Lin (National Chungcheng University), Wan-Ying Yang (National Chengchi University).

“Quota Design and the Political Representation of Indigenous People in Taiwan: 2002-2018 local council elections”

◇討論者

Fumi Ikeda (Waseda U.)・Kana Inata (Waseda U.)

【分科会 H（比較政治部会 2）：政党制の多様性と実証研究：投票行動、利益誘導、集票構造】

◇司会者

ケネス・マッケルウェイン（東京大）

◇報告者

高宮秀典（東京大）

「参議院自民党議員による利益誘導：自然実験アプローチとインタビュー調査を通じて」
車田忠継（二松学舎大学附属高等学校）

「『坊秀男関係文書』に見る自民党代議士の後援会－その誕生・組織・活動・終焉－」

勝又裕斗（東京大）・野田俊也（ブリティッシュコロンビア大）

“Kicking the Rascals Out: On the Strategic Incentives under the Proportional Representation and Single Non-Transferable Vote Systems.”

石間英雄（京都大）・建林正彦（京都大）

「対等な二院制と議員間の協力関係」

◇討論者

粕谷祐子（慶應義塾大）・奥健太郎（東海大）・藤村直史（神戸大）

【分科会 I（方法論部会 2）：テキスト分析の発展と政治学への波及・応用】

◇司会者

高橋百合子（早稲田大）

◇報告者

金子智樹（東京大）・浅野良成（東京大）・三輪洋文（学習院大）

“Extracting Ideological Dimensions from Legislative Speeches in the Japanese Diet”

斎藤崇治（東京大）

“Supervision among Agencies for the President: Selection through Interagency Coordination”

御器谷裕樹（慶應義塾大）

「1980 年代の中国共産党による宣伝政策における『伝統』の位置」

◇討論者

日野愛郎（早稲田大）・持橋大地（統計数理研究所）

◆分科会 J・K（12:30～14:30）

【分科会 J（投票行動部会）：投票行動と情報】

◇司会者

勝又裕斗（東京大）

◇報告者

大森翔子（東京大）

「ソフトニュースの入口効果：実験による再検討」

松林哲也（大阪大）

"Temperature and Political Behavior"

高橋百合子（早稲田大）、飯田健（同志社大）

"Fake News and its Electoral Consequence: A Survey Experiment on the Case of Mexico"

◇討論者

飯田健（同志社大）・鹿毛利枝子（東京大）

【分科会 K（歴史部会）：戦前日本における政党の地方組織：立憲民政党の場合】

◇司会者

若月剛史（関西大）

◇報告者

井上敬介（北海道大）

「立憲民政党北海道支部と普通選挙」

杉谷直哉（丹波篠山市役所）

「島根県における立憲民政党の地方組織の展開」

塚原浩太郎（東京大）

「民政党における県下支部の構成―静岡県を事例に一」

◇討論者

季武嘉也（創価大）・砂原庸介（神戸大）

◆分科会 L（14:45～16:45）

【分科会 L（ポスターセッション）：選挙研究のフロンティア】

◇報告者

平野浩（学習院大）

「有権者の分配的公正観：「平等」の意味を中心に」

山田尚武（日本大）

「コロナ禍におけるリスク回避とマスメディアによる不確実性の軽減」

大倉沙江（筑波大）・山本英弘（筑波大）・竹中佳彦（筑波大）

「外国人に対するエリートの態度とその変化」

Nordstroem, Robert Tor Erik（早稲田大・院）

「国政選挙の政党間競争が無投票当選にもたらす影響―都道府県議会の計量分析―」

田中智和（上宮高等学校）

「18 歳が感じる『政治』とは」

河村和徳（東北大学）

「有権者からみたジェンダーに関する地方議員イメージ」

清水直樹（高知県立大）・矢内勇生（高知工科大）・鷲田任邦（東洋大）・東島雅昌（東北大）

「民主制と独裁制の垣根を越えた選挙タイミングの包括的分析：Election Timing across Autocracy and Democracy」

小野恵子（国際基督教大）

「人口知能と自然言語処理：政治学への応用レビュー」

藤村直史（神戸大）・重村壮平（神戸大）

「どのような条件下で政治家は選挙操作・不正を是正しようとするのか？一票の格差に関する都道府県議会議員へのサーヴェイ実験」

西村翼（神戸大）

「議員の地縁と補助金配分：回帰不連続デザインを用いた検証」

佐藤敦子（慶應義塾大）

「自民党・公認獲得過程におけるメイル・モノポリーの質的研究－小選挙区における女性新規参入者の視点から－」

三輪洋文（学習院大）・野中尚人（学習院大）

「日本の国会における議会発言の委任モデルの検証」

竹田香織（東北大）

「原子力災害地域における女性の政治意識」

遠藤勇哉（東北大）・Charles Crabtree（Dartmouth College）・尾野嘉邦（早稲田大）

「男性の、男性による、男性のための政治？－Fragile Masculinity と有権者の投票行動－」

今野幹浩（神戸大）

「候補者の政策位置に対するスウィングの影響」

五ノ井健（早稲田大）

「国会の行政府監視機能の検証－議会質問の分析から－」

浅野良成（東京大）

「候補者にとっての外交政策：「外交は票にならない」言説の検証」

平野淳一（甲南大）

「現職退任後の市長選挙」

2020 年度日本選挙学会賞

日本選挙学会賞は、会員相互の研究交流の促進と広い意味での選挙研究の発展を目的として 2009 年度に創設されました。学会賞には、研究会のポスターセッションにおける会員の優れた研究発表を対象とする「優秀ポスター」、研究会における会員の優れた論文報告を対象とする「優秀報告」、『選挙研究』に掲載された会員の優れた投稿論文を対象とする「優秀論文」、の3つの賞が設けられています。

2020 年度の受賞者は次のとおりです。

【優秀論文】

勝又裕斗（東京大学）

「中選挙区制における得票均衡の検証のための新指標」

講評

2020 年度の学会賞は、優秀論文については『選挙研究』第 36 巻 1 号、2 号に掲載された投稿論文 3 本が対象となりました。5 人の選好委員で順位付き投票を行った後、オンライン会議を開いて審議を行いました。その結果、全会一致で勝又裕斗氏の「中選挙区制における得票均衡の検証のための新指標」を選ぶことといたしました。勝又氏の論文は、従来いわゆる M+1 法則を検証するために用いられてきた有効候補者数という測定指標が、理論に完全には適合するものではなく問題を孕むものであることを鋭く指摘したうえで、それに代わる新たな指標を提起し、これを用いて戦後の政党システム変化を描写しようとしたものであり、国内外の関連する研究にも今後大きな影響を及ぼす可能性を持つ論稿として高く評価されたものです。

なお優秀報告賞、優秀ポスター賞につきましては、学会での口頭発表が見送られたことを受け、残念ながら今年度は選考を見送ることとなりました。

学会賞が今後も会員の研究活動の励みとなり、多様で優れた研究を生み出すことにつながることを祈念いたしますとともに、今回の選考にご協力いただいた方々に改めて御礼申し上げます。

(2020 年度学会賞選考委員長 建林正彦)

[目次へ](#)

『選挙研究』 目次

第 37 巻 1 号

はじめに	安野智子
<特集 不平等・格差・分極化>	
新自由主義は市民社会の活性化をもたらすのか	
—自己責任意識と市民的選好の実証分析—	坂本治也
大阪における感情的分極化	善教将大
日本の新聞の左右論調	
—1970 年～2019 年—	金子智樹
<独立論文>	
投票所閉鎖時刻繰り上げと投票率・各党得票率の関係	福元健太郎・菊田恭輔
選挙における「政府の失敗」	
—選挙公営費の支出配分の観点から—	安野修右
中選挙区制における候補者擁立戦略	勝又裕斗
<資料論文>	
サーベイ実験における警告メッセージの有効性	善教将大・木村高宏

第 37 卷 2 号

はじめに

安野智子

<特集 1 計算社会科学の進展と政治学への波及・応用>

エコチェーンと政治的イデオロギーの分断

笹原和俊

位置情報ゲームの POI (Point of Interest) 密度と地域居住者の社会心理諸指標の関連

三浦麻子・小森政嗣

<特集 2 新型コロナ禍の政治>

コロナ禍における人々の「不安」と政治的アクター評価の構造

—「危機における価値変容 (Values in Crisis)」国際比較調査第 1 波の結果から—

谷口尚子・Plamen Akaliyski・Joonha Park

COVID-19 対策において医療信頼が行動変容に及ぼす効果

岡田勇・柳至・久保慶明

コロナ禍におけるリスク回避とマスメディアによる不確実性の軽減

山田尚武

<書評>

菅谷幸浩著『昭和戦前期の政治と国家像』

手塚雄太

カリン・ウォール＝ヨルゲンセン著・三谷文栄・山腰修三 訳『メディアと感情の政治学』

細貝 亮

田中拓道著『リベラルとは何か』

河崎 健

竹中治堅著『コロナ危機の政治 安倍政権 vs. 知事』

上神貴佳

中井遼著『欧州の排外主義とナショナリズム』

秦 正樹

<資料> 最近の選挙結果 (2020 年)

[目次へ](#)

各委員会からのお知らせ

【企画委員会から】

2022 年度日本選挙学会総会・研究会は、2022 年 5 月 7 日 (土)・8 日 (日) に石川県文教会館・金沢商工会議所会館で開催される予定です。すでに周知のとおり、感染、濃厚接触等の事情で現地に来られない会員がおられることを考慮し、ポスターセッションを除き、総会・共通論題・分科会については Zoom でのオンライン参加が可能となります (ただし報告者がオンラインを希望したポスター報告についてはオンライン参加可能です)。企画委員会といたしましては、対面参加であれオンライン参加であれ、有意義な研究会となるようスムーズな進行に向け努力してまいります。

共通論題は、「2021 年衆院選の分析」というタイトルの下、3 名の報告者に集計データ、サーベイデータ、実験データをもとに昨年の衆議院議員総選挙について分析して頂きます。

約4年ぶりの衆院選、コロナ禍で初となる国政選挙ということで注目を集めた選挙について、報告を中心に参加者の間で活発な議論が行われることを期待したいと思います。共通論題とポスターセッションのほか、今回は12の分科会が企画されています。その内訳は、歴史部会、制度・法律部会（2つ）、比較政治部会、方法論部会、政治心理部会（2つ）、政治経済部会、政党・議会部会（2つ）、国際交流部会、書評セッションとなっており、幅広い内容をカバーしています。このうち3つが公募による報告をまとめたセッションですが、今年は想定より多数の申込があったため、一部の報告はポスターセッションでの報告に回って頂くこととなりました。ポスターセッションは全部で18報告が予定されており、2日目の昼、他の分科会が実施されていない時間帯に単独で実施されます。

依然として新型コロナウイルス感染が懸念される中でのハイブリッド開催ということで、何かとご不便をおかけすることと思いますが、具体的な時間割や対面参加の注意点、オンラインでの参加方法については、近日中に公開されます研究会プログラム、ならびに学会からのご案内等をご覧いただければと思います。対面参加にせよオンライン参加にせよ多くの皆様にお目にかかれそうですこと、心より楽しみにしております。

（2022年度大会企画委員長 飯田 健）

【年報編集委員会から】

2021年度刊行の『選挙研究』第37巻は、第1号で「不平等・格差・分極化」と題して3本の特集論文（うち1本は投稿による査読論文）、独立論文3本、資料論文1本を掲載しました。また第2号では「計算社会科学の進展と政治学への波及・応用」および「新型コロナ禍と政治」という2つの特集を設定し、5本の特集論文と5本の書評を掲載しました。編集長の体調不良で第2号の刊行が大幅に遅れてしまいましたことを深くお詫び申し上げます。刊行にあたっては、執筆者、年報編集委員会、査読委員会、事務局、木鐸社の皆様に大変お世話になりました。この場を借りて心より御礼申し上げます。今後とも、投稿論文会員の皆様の積極的な投稿をお願いいたします。

（年報第37巻担当編集委員長 安野 智子）

2022年1号（6月刊行予定）は「政党組織・後援会」をテーマに特集を組みました。その特集では、2021年選挙学会のセッション報告をもとにした依頼論文4本と、査読を通過した1本の論文を掲載する予定です。これ以外に独立論文2本、資料論文1本も掲載予定となっております。書評は7冊を紹介することになっております。

2022年2号（12月刊行予定）は、特集を「2021年衆議院総選挙」といたしました。2022年度研究会の共通論題でのご報告分に加え、編集委員会からの依頼論文も掲載の予定です。また、同特集では論文の公募も行いましたので、査読を通過してこの特集に加えられる論文もあるかもしれません。書評では9冊の本を紹介する予定です。また「最近の選挙結果」も例年に引き続き掲載の予定です。

論文を投稿して下さった会員の皆様、依頼論文や書評等の執筆を引き受けて下さった皆様、そして査読委員会、査読を担当された皆様のご協力に、この場を借りてお礼申し上げます。

（年報第38巻担当編集委員長 奥 健太郎）

※※※投稿資格と投稿方法※※※

1. 投稿資格：

論文を投稿できるのは、投稿時点において年会費を完納している日本選挙学会の正会員です。論文を投稿するにあたっては、学会ウェブ上の My JAES で会費納入状況を確認してください。なお、会費納入状況は月末締めで更新されますことにご留意ください。投稿の詳細につきましては、学会ウェブ上に掲載してある『『選挙研究』執筆要領及び論文投稿要領』（<http://www.jaesnet.org/download/rules/JJES20141206.pdf>）をご確認ください。

2. 投稿方法：

投稿は随時受け付けております。学会ウェブサイト（<http://www.jaesnet.org/index.html>）上の My JAES から論文の PDF ファイルをアップロードしてください。投稿方法の詳細につきましては、同じく学会ウェブサイトにあります「論文投稿システムマニュアル（投稿者用）」（http://www.jaesnet.org/important_news/pdf/manual_contributor_ver1_1.pdf）をご参照ください。年報編集委員会より投稿受理の連絡を投稿者に行くとともに、査読委員会に投稿論文を送付します。投稿後、時間が経過しても（2 週間程度）原稿受理の連絡がない場合、改めて連絡をいただければ幸いです。

【査読委員会から】

2021 年度の査読委員会（委員長 1 人、匿名の副委員長 1 人、匿名の委員 4 人で構成）は、2021 年 6 月に発足しました。本ニューズレターを執筆している 3 月下旬時点で、合計 12 本の投稿論文（前年度の委員会から引き継いだ修正再投稿論文の 4 本を含む）を査読しております。このうち、掲載が確定しているものは 4 本です。

新規に投稿された論文は 8 本ですが、要修正と判定されたものが 3 本、掲載不可と判定されたものが 2 本、残りの 3 本は査読中となっております。修正再投稿により掲載となったものは 1 本です。

投稿数は近年増加傾向にあり、安定的な査読体制を構築することが、査読委員会の大きな課題となっております。この 1 年間では、30 人以上の会員に、査読を担当していただきました。ご協力いただきました方々に、心より御礼を申し上げます。

さまざまな機会に告知しておりますが、『選挙研究』では、2020 年度より新たに「資料論文」のカテゴリーを設け、「過去の研究成果の追試や再現性などの検証、新規性のある事実や事例の報告、新たに収集されたデータセットおよびその公開に関する情報など発展的価値がある論文」の投稿を受け付けております。分量は通常の研究論文よりも短く、日本語は 10,000 字以内、英語は 4,000 語以内となります。研究論文とあわせて、会員の皆様のご投稿をお待ちしております。

（2021 年度査読委員長 森 裕城）

【編集委員会、査読委員会から】

「資料論文」の 카테고리について

『選挙研究』では、2020 年度より「資料論文」というカテゴリーが設置されています。その趣旨がこれまで必ずしも周知されてこなかったもので、ここにご案内します。

（１）導入の趣旨

近年、多くの学術雑誌で研究論文よりも短い論文を掲載する動きが加速しております。その背景には、①速報性の高い課題への需要の高まり、②投稿数の増加、③追試やメタアナリシスなど、方法・アプローチの多様化などがあります。こうした現状に鑑み、『選挙研究』でも従来の「研究論文」に加えて「資料論文」の枠が設けられました。

（２）「資料論文」とは

「資料論文」は「過去の研究成果の追試や再現性などの検証、新規性のある事実や事例の報告、新たに収集されたデータセットおよびその公開に関する情報など発展的価値がある論文」ですが、この項目に限定されるわけではありません。速報性の高いテーマ、情勢調査の精度の検証など実践的要素の強い内容、論文化するには至らないが重要性の高い実験結果の報告、統計パッケージの開発・普及、過去の実験結果の追試・再現、メタアナリシスの結果なども、資料論文として投稿可能です。

「資料論文」は、研究論文より質的に劣るものではありません。「研究論文」とは性質が異なるカテゴリーであり、論文として評価されるものです。

（３）資料論文の査読基準

研究論文と資料論文では、評価の基準が若干異なります。査読者が依拠する基準は、次のようになっています。

「研究論文については、主に独創性、有用性、新規性のいずれかにおいて学術的価値を有するかという点からコメントをお願い致します。また、資料論文については、過去の研究成果の追試や再現性の検証、新規性のある事実や事例の報告、新たに収集されたデータセットおよびその公開に関する情報など、学術研究としての発展的価値があるかという点からコメントをお願いします。」

以上のように、「資料論文」は、従来にない可能性を有したカテゴリーになりますので、「資料論文」への投稿もどうか積極的にご検討ください。

[目次へ](#)

理事会だより

【学会賞について】

2021 年 12 月 4 日に開催された 2021 年度第 3 回理事会において、以下の「2022 年度日本選挙学会賞要綱」が承認されました。

2022 年度日本選挙学会賞要綱

日本選挙学会事務局

（目的）

1. 日本選挙学会は、会員の優れた研究業績を顕彰するために、本学会に学会賞を設ける。

（学会賞の種類）

2. 学会賞として、以下を設ける。

1) 優秀ポスター

2022 年度研究会のポスターセッションにおける会員の優れた研究発表を対象とする。

2) 優秀報告

2022 年度研究会における会員の優れた論文報告を対象とする。

3) 優秀論文

2022 年度に発行された、日本選挙学会年報『選挙研究』（第 38 巻第 1 号・第 2 号）に掲載された会員の優れた投稿論文を対象とする。

（選考委員会）

3. 学会賞の選考のため、選考委員会を組織する。選考委員会の構成は、以下の通りとする。

1) 選考委員会は、理事長の推薦、理事会の承認を得た選考委員長及び選考副委員長、当該年度の企画委員長、編集委員長、査読委員長によって構成される。

2) 選考委員会は、ポスター小委員会、報告小委員会、論文小委員会を組織し、それぞれ小委員会委員を会員に委嘱する。ただし、小委員会委員は公表しない。

3 の 2. 選考委員会および各小委員会の任期は、各委員会の組織された日から学会賞の表彰される当該年次総会までとする。ただし、再任を妨げない。

（選考手続き）

4. 学会賞は以下の手続きによって選考する。

1) 各小委員会は、対象となる研究業績について第一次選考を行い、第二次選考に残る研究業績を選考委員会に提案する。

2) 選考委員会は、各小委員会の提案に基づき、第二次選考を最終選考とし、受賞候補を決定する。

3) 選考委員会は、定められた期日までに選考の経過および結果を理事会に報告する。

(表彰)

5. 受賞者それぞれに、賞状および副賞として賞金を授与する。

[目次へ](#)

理事会議事録

日本選挙学会

2020 年度第 3 回理事会議事録

日 時：2020 年 12 月 5 日（土） 14 時 00 分～16 時 30 分

場 所：オンライン（zoom 利用）

出席者：池谷知明（理事長）、遠藤晶久（事務局長）、飯田健、井田正道、稲増一憲、岩崎正洋、岡田浩、岡田陽介、奥健太郎、桶田敦、鎌原勇太、河崎健、清水唯一朗、竹中佳彦、谷口尚子、西川賢、肥前洋一、日野愛郎、前田幸男、森正、森裕城、安野智子、和田淳一郎（理事）、境家史郎、堤英敬（監事）、小川寛貴、築山宏樹、三輪洋文、山崎新（以上、事務局幹事）

議題

議事に先立ち、本理事会を録画することが異議なく承認された。
前回議事録を確認し、確定した。

◎ 報告事項

1. 各委員会の活動状況について

1－1. 2021 年度企画委員会

西川賢 2021 年度企画委員長より、大会企画案の報告とポスターの追加公募について説明がなされた。若手、国際、ジェンダーバランスを意識し、共通論題＋11 件のパネル＋ポスターの形とし、8 件が企画委員企画、3 件を応募に割り振った。ポスターの追加公募をするのか、企画委員が報告者に含まれていてもよいのか、という点について提議がなされ、前者については、例年通り行うことが異議なく承認された。後者については、共著者として名前を報告者に連ねることは問題がなく、報告（登壇）についてはやむを得ない場合にのみ認め、学会賞候補にはしない、という形の内規としていくことが確認され、承認された。

1－2. 2022 年度企画委員会

飯田健 2022 年度企画委員会より、企画委員の選定を進める旨の報告があった。

1－3. 2020 年度年報編集委員会

竹中佳彦 2020 年度年報編集委員長より、第 36 巻 2 号の発行状況の説明があり、引継ぎを行うことが報告された。

1－4．2021 年度年報編集委員会

安野智子 2021 年度年報編集委員長より、進捗状況の説明があった。2 号の特集については公募の可能性を含めて検討していくことが報告された。

1－5．2022 年度年報編集委員会

奥健太郎 2022 年度年報編集委員長より、編集委員選定の現況が報告された。

1－6．選挙管理委員会

井田正道選挙管理委員長より、選挙管理委員として竹内桂会員、真下英二会員を選定したことが報告された。

1－7．査読委員会

日野愛郎査読委員長より、投稿数が 9 本（そのうち、引継ぎ 3 本）であったことが報告された。また、資料論文での投稿が 1 本あったことが紹介され、更なる周知のお願いがなされた。

2．2021 年総会・研究会の開催について

岡田浩開催校理事より、2 つの会場で開催すること、1 つは会場費の払い込みをし、1 か月前までキャンセルが可能であることが報告された。オンライン開催については 3 月に決定する旨も確認された。

3．日本学術会議第 25 期新規会員任命に関する声明について

遠藤事務局長より、日本学術会議第 25 期新規会員任命に関する声明について、2020 年 11 月 15 日にホームページに掲示をし、会員にもメールで経緯の説明を行った旨の報告がなされた。

4．その他

(1) ニュースレターの発行について

遠藤事務局長より、2 月の発行を目指し、執筆依頼をすることが報告された。

(2) その他

- 遠藤事務局長より、堀江湛元理事長の訃報が報告された。訃報についてはニュースレターに記載をする旨が報告された。
- 遠藤事務局長より、日本学術振興会研究事業課企画・人社係「人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進事業」から意見照会が来ていることが報告された。データ共有のための手引きの草案に対して意見を求めるもので、飯田健理事が対応することが承認された。

Ⅲ. 審議事項

1. 2020 年度日本選挙学会賞について

遠藤事務局長より、2020 年度日本選挙学会賞について、11 月 27 日に開催された学会賞選考委員会で、勝又裕斗「中選挙区制における得票均衡の検証のための新指標」(『選挙研究』第 36 巻 1 号掲載)が論文賞に選定されたことが報告された。

2. 2021 年度学会賞選考委員長について

遠藤事務局長より、2021 年度学会賞選考委員長について、一橋大学の稲葉哲郎会員に依頼し、お引き受けいただいたことが報告された。

3. 2021 年度日本選挙学会賞要綱(案)について

遠藤事務局長より、来年度の日本選挙学会賞要綱(案)について説明がなされた。来年度は現地開催を中止する場合でもオンライン開催とする予定であるため、報告賞とポスター賞について例年通りの規定とした。

4. 理事選挙制度変更案について(資料 7)

遠藤事務局長より、理事選挙制度変更案について事務局提案の説明があった。事務局提案は、「年齢別選挙区を廃止し、3 人連記制とする」「得票の多い順に定員(20)まで当選。最下位に候補者が複数名いた場合は、委員長による抽選」である。理事長から提案理由が説明され、審議の結果、承認された。遠藤事務局長及び理事長から、3 月に規定案を示したのち、5 月の総会に諮りたい旨の報告がなされた。

5. その他

(1) 入退会申込者について

遠藤事務局長より、入退会について、先日の理事会以後、入会が 5 名、退会は 0 名、現在の会員数は 460 名(うち法人会員は 1)であるとの報告がなされた。

(2) その他

研究会での企画委員の登壇について、再度議論があり、厳格にルール化することにより登壇者が減少する懸念もあるため、引き続き議論が必要であるとの意見が出された。

以上

日本選挙学会

2020 年度第 4 回理事会議事録

日 時：2021 年 3 月 13 日(土) 14 時 00 分～16 時 00 分

場 所：オンライン(zoom 利用)

出席者：池谷知明(理事長)、遠藤晶久(事務局長)、飯田健、稲増一憲、岩崎正洋、岡田

浩、岡田陽介、桶田敦、河崎健、木寺元、清水唯一朗、竹中佳彦、谷口尚子、西川賢、肥前洋一、日野愛郎、前田幸男、森正、森裕城、安野智子、湯淺壘道(以上、理事)、境家史郎(以上、監事)、小川寛貴、築山宏樹、三輪洋文、山崎新(以上、幹事)

議題

議事に先立ち、本理事会を録画することが異議なく承認された。
前回議事録を確認し、確定した。

◎ 報告事項

1. 各委員会の活動状況について

1-1. 2021 年度企画委員会

西川賢 2021 年度企画委員長より、スケジュールが決定したこと、ポスターセッションについては時間変更の可能性があることが報告された。また、共著論文の増加や日本語を母語としない報告者への配慮も含め、報告者の登壇回数制限の規定についての提案がなされた。具体的な状況について確認された後、2022 年度企画委員会に改めて提案が委ねられることが確認された。

1-2. 2022 年度企画委員会

飯田健 2022 年度企画委員長より、企画委員候補から内諾を得たことが報告された。そのうちの 1 人が編集委員と兼務となってしまうことが懸念事項として報告され、当該委員の負担を考え、差し替えの方向で検討し、次回理事会で報告することとなった。

1-3. 2020 年度年報編集委員会

竹中佳彦 2020 年度年報編集委員長より、『選挙研究』第 36 巻第 2 号における鶴谷論文に関し、実際のタイトルと表紙のタイトルが異なるという問題に関する経緯や詳細が報告され、次号に掲載する訂正文案の提示と出版社の変更を進める提案があった。理事長も同意し、早急にワーキンググループを進めていくことが報告された。

1-4. 2021 年度年報編集委員会

安野智子 2021 年度年報編集委員長より、第 37 巻 1 号は特集 3 本と独立 4 本を掲載予定であることが報告された。

1-5. 2022 年度年報編集委員会

事務局長(代読)より編集委員の指名について説明がなされ、異議なく承認された。

1-6. 査読委員会

日野愛郎査読委員長より、前回理事会での投稿件数 9 件に新たな投稿が 2 件あったこと、掲載可能である論文が 1 件であることが報告された。また、論文投稿システムに軽微なバグがあったため改修を行いたいとの申し出があった。これに関連して、査読者間でリプライレーターを共有可能にする修正が必要であるとの報告があった。その際、査読結果が出そろった後の共有であることの確認がなされた。

1-7. 2020 年度学会賞選考委員会

事務局長より、優秀論文賞受賞受諾の報告がされた。本年は懇親会開催が困難であるため、総会で挨拶されることが報告された。

2. ニュースレターについて

事務局長より、3月末の発行予定で編集作業をしていることが報告された。また2019年度第4回理事会における大会での運営方針に関する報告を、ニュースレターに掲載することについて報告があった。

3. その他

- 櫻田会への出版助成の申請を行ったことが報告された。例年は挨拶へ伺っていたが、先方よりコロナ禍の状況を勘案して選挙研究と申請書の郵送のみでよいとの提案があったため、そのように対応し、状況が落ち着いた際には挨拶へ伺う意向であることが報告された。
- 昨年の総会で報告のあった、会費納入者が理事会選挙人名簿から掲載漏れした事案について、さらにもう1名の会員についても発覚したこと、前・現事務局長より当該会員にお詫びをし、理解が得られたことが報告された。
- 東京大学社会科学研究所社会調査・データアーカイブ研究センターより、文部科学省共同利用・共同研究拠点申請のための認定サポートレターの作成依頼について、3月5日に理事長名でサポートレターを送付したことが報告された。

II. 審議事項

1. 2021 年度総会・研究会の開催について

理事長より、新型コロナウイルス感染症の昨今の情勢（緊急事態宣言、変異株の広がり、ワクチン接種の状況など）を踏まえ、総会・研究会の金沢での現地開催を中止し、オンライン開催とすることが提案された。また実施に関する具体的な作業は事務局と企画委員会が行うことを想定していることが報告され、異議なく承認された。

西川企画委員長からは人的な補助が求められた。また、海外在住者の会費納入、ポスターセッションの実施方法・時間をどのようにするか、幹事からは、非会員の参加をどのようにするかと問題提起された。事務局長から、オンライン開催については全会員にメールを送付すること、アルバイトは事務局で用意すること、非会員の参加については、共著者は参加可能であることを前提として事務局で裁量することが提示され、承認された。また、その他の事項については事務局と企画委員会で調整を行うことが述べられた。

2. 2022 年度総会・研究会の開催について

理事長から、2021 年度開催予定であった金沢大学での開催が提案された。岡田浩開催校理事より、当初の予定をスライドさせて行うとの意向が示され、異議なく承認された。

3. 2021 年度査読委員会委員長について

事務局長より、査読委員会規程に従い、森裕城査読委員会副委員長が 2021 年度査読委員長を務めるという提案がなされ、異議なく承認された。

4. 理事選挙制度変更案について

事務局長より、第3回理事会で承認された方針（「年齢別選挙区の廃止、3人連記制の

導入」「得票順に定員（20）まで当選。最下位に候補者が複数名いた場合は、委員長による抽選」に従い、日本選挙学会理事・監事候補者選出規程と日本選挙学会公選理事候補者選出投票要綱の改正案が提示され、すでにワーキンググループで承認を得られていることも報告された。その後、理事長より主旨説明がなされ、異議なく承認された。

5. その他

(1) 入退会申込者について

事務局長より、入退会について、先日の理事会以後、入会が0名、退会は1名（実際は昨年度で大会が認められていたが、事務局の手続きが遅延しており今回の報告）あり、現在の会員数は459名（うち法人会員は1）であること、現在入会申請中が1名、今年度での退会予定が6名いるため、年度末では会員数454名の見込みであることが報告された。

(2) その他

事務局長より、現在事務局に届いている、国立国会図書館「国立国会図書館インターネット資料収集保存事業における貴機関インターネット資料の収集等に係る許諾について（依頼）」についての説明がなされ、承諾の提案がなされ、異議なく承認された。なお、ホームページの全部の階層を保存するののかという質問があり、事務局長より、保存しないものの指定も可能であるため、アーカイブのリンク先の論文については収集対象外とするとの返答があった。

日本選挙学会

2021年度第1回理事会議事録

日時：2021年5月8日（土） 12時05分～12時55分

場所：オンライン（zoom利用）

出席者：池谷知明（理事長）、遠藤晶久（事務局長）、飯田健、井田正道、稲増一憲、岩崎正洋、岡田浩、岡田陽介、奥健太郎、桶田敦、鎌原勇太、河崎健、木寺元、清水唯一朗、竹中佳彦、谷口尚子、西川賢、肥前洋一、日野愛郎、前田幸男、森裕城、安野智子、湯浅壘道、和田淳一郎（以上、理事）、境家史郎（監事）、小川寛貴、築山宏樹、三輪洋文、山崎新（以上、事務局幹事）

議題

議事に先立ち、本理事会を録画することが異議なく承認された。
前回理事会議事録を確認し、確定した。

◎報告事項

1. 各委員会の活動状況について

1-1. 2021年度企画委員会

西川賢 2021 年度企画委員長より、研究会がトラブルなく進行していることが報告された。また、学会賞（優秀論文賞、優秀ポスター賞）選考の引継ぎについて今後検討が必要であることが報告された。

1-2. 2022 年度企画委員会

飯田健 2022 年度企画委員長より、企画委員として新たに清水直樹会員を選任したことが報告された。また、研究会における部会の名称については企画委員会に裁量があることの確認がなされた。

1-3. 2021 年度年報編集委員会

安野智子 2021 年度年報編集委員長より、第 1 号の特集論文として予定されていたもののうち、1 つが取り下げられたこと、そのかわり、査読を経た投稿決定論文のうち、特集の趣旨に合致する 1 本について、査読を経ていることを明示したうえで特集論文として組み込むこと、書評については刊行数が少なかったため第 2 号にまとめて掲載することが報告された。

1-4. 2022 年度年報編集委員会

奥健太郎 2022 年度年報編集委員長より、研究会期間中に委員会を開催し、第 1 号の特集を決定する予定であることが報告された。

1-5. 選挙管理委員会

井田正道選挙管理委員長より、総会議案である選挙制度改革案が通った場合、名簿作成が 1 か月後ろ倒しになるが、発送作業等は例年のスケジュールで進められる見込みであることが報告された。

1-6. 査読委員会

日野愛郎査読委員長より、新規で 2 本の投稿（うち 1 本は資料論文）があり、委員長在任期間中に合計 13 本（引継ぎ 3 本含む）の投稿を扱ったこと、10 本について、3 本がリジェクト、2 本が掲載、3 本が修正再投稿、残り 2 本が査読中であることが報告された。

2. 2021 年度総会・研究会の開催について

事務局長より、研究会がトラブルなく開始されたこと、共通論題及び総会はウェビナーで実施することが報告された。

3. 2022 年度総会・研究会の開催について

岡田浩開催校理事より、2022 年 5 月 7 日（土）、8 日（日）に石川県文教会館と金沢商工会議所会館を予約済みであることが報告された。

4. 2023 年度総会・研究会の開催について

事務局長より、2023 年度は東京開催の年であり現在開催校を打診していることが報告された。

5. その他

事務局長より、4月5日に発行したニューズレターについて、2019年度決算案の数字に間違い（年会費収入について、正:3,400,686円、誤:3,400,000円）があったこと、次号において訂正を出す予定であることが報告された。また、前回理事会で承認された理事選挙制度改革案が本日の総会に審議のため上程することが報告された。

◎審議事項

1. 2020年度決算・監査報告について

事務局長より、2020年度決算項目について説明があった。実態として昨年度末時点の資産が昨年度決算報告の資産よりも多いことが確認されたため、昨年度決算の次年度繰越金について修正をしたうえで決算を行ったことが報告された。

境家史郎監事より、適正に予算執行がなされていた旨が報告された後、決算は原案通り承認された。

2. 2021年度予算案について

事務局長より、予算項目について説明があり、原案通り承認された。

3. その他

(1) 入退会申込者について

事務局長より、前回理事会後、入会が6名、退会が17名（会費未納退会含む）で合計が448名（うち法人会員1）であることが報告された。

(2) その他

特になし。

以上

日本選挙学会

2021年度第2回理事会議事録

日 時：2021年9月4日（土） 14時00分～16時00分

場 所：オンライン（zoom利用）

出席者：池谷知明（理事長）、遠藤晶久（事務局長）、飯田健、井田正道、稲増一憲、岡田浩、岡田陽介、奥健太郎、桶田敦、鎌原勇太、河崎健、木寺元、清水唯一朗、竹中佳彦、谷口尚子、西川賢、肥前洋一、日野愛郎、前田幸男、森正、森裕城、和田淳一郎（以上、理事）、堤英敬（監事）、小川寛貴、築山宏樹、三輪洋文、山崎新（以上、事務局幹事）

議題

議事に先立ち、本理事会を録画することが異議なく承認された。

前回理事会議事録を確認し、確定した。

◎ 報告事項

1-1. 2021 年度企画委員会

西川賢 2021 年度企画委員長より、大会が無事終了したことが報告された。そのうえで、登壇についてのルールの明確化（論文未提出、要旨のみの提出、当日の登壇キャンセルなど）、学会賞の選考委員会と企画委員会との連絡体制の強化という課題が指摘された。また、タイトルとペーパー、報告の言語が不一致のケースをどう扱うか、という点についても議論が及んだ。理事長より、12 月の理事会で規約の明文化を提案する旨が述べられた。

1-2. 2022 年度企画委員会

飯田健 2022 年度企画委員長より、企画委員パネルの報告者、討論・司会の一部が決定したこと、共通論題のテーマは「2021 年衆議院議員総選挙」で考えていることが報告された。

1-3. 2021 年度年報編集委員会

安野智子 2021 年度年報編集委員長（事務局長代読）より、37 巻 1 号が発刊されたこと、2 号の進捗が遅れており、12 月には間に合わないことが報告された。

1-4. 2022 年度年報編集委員会

奥健太郎 2022 年度年報編集委員長より、38 巻 1 号（6 月刊行予定）は特集として「政党組織・後援会」とし、特集論文を 4 名に依頼したこと、公募でも 5 本程度の投稿があることが報告された。また、2 号の特集は「2021 年総選挙」とし、特集論文について 2 名から内諾を受けていること、2022 年 2 月締め切りで論文公募も行っていることが報告された。

1-5. 選挙管理委員会

井田正道選挙管理委員長より、手順に従い 8 月 31 日まで選挙人名簿を開示したこと、名簿が確定された場合、10 月 10 日までに投票用紙を発送すること、学生アルバイトの雇用が難しいため、封入については外注を予定していることが報告された。

1-6. 査読委員会

森裕城査読委員長より、6 月より新しい体制がスタートし査読委員 2 名の交代があったこと、引継ぎを含めた本数の確認、新規投稿の査読者はこれから決定すること報告された。

2. 2021 年度総会・研究会の開催について

事務局長より、2021 年度総会・研究会の経費報告がなされた。

3. 2022 年度総会・研究会の開催について

岡田浩開催校理事より、開催場所の部屋及びポスター掲示場所（20 枚分）を確保したこと、6 か月前までに会場利用料の支払いをすることが報告された。

4. 2023 年度総会・研究会の開催について（事務局）

事務局長より、開催校候補の大学より内諾を得たこと、12 月理事会で詳細を報告することが述べられた。

5. その他

特になし。

◎審議事項

1. 理事候補者選挙における選挙人名簿について

事務局長より、選挙人名簿についての名簿の回覧が終了したことが報告され、選挙人名簿が異議なく確定された。また、選挙制度改革により会費振込期間を 1 か月延長したこと、7 月 14 日に督促メールを行ったことによって、会員に占める選挙人率が向上したこと（前々回 62.4%、前回 58.2%、今回 72.5%）が報告された。

2. その他

（1）入退会申込者について

事務局長より、1 名の入会審査について異議なく承認された。会員数については前回理事会以降、入会 8 名、退会 1 名、合計 455 名であることが報告された。

（2）その他

特になし。

◎懇談事項

1. 令和 3 年度個人情報保護法改正への対応について

事務局長より、湯浅壱道理事から令和 3 年度個人情報保護法改正に対応する必要があると指摘されたことが報告された。主な指摘として、年齢別選挙区がなくなることにより生年月日欄不要であること、個人情報保護法の改正により入会申請書に個人情報の利用目的を記載する等の対応が必要であることであった。

この指摘に対して事務局から以下の報告があった。

- 同法は来年度より施行されるが、今後出される予定の学術団体向けのガイドラインの検討が必要であること
- 収集する個人情報を厳選する必要があるものの、生年については会員状況の把握に利用するため必要であること
- プライバシーポリシーの記載を他学会の状況も参考に検討すること
- 入会申請書のページ数を 2 ページとし審査に付すページについては個人情報が記載されていない部分を用いることを検討していること

上記の件について、理事長が趣旨説明をし、原案を提案したいので、意見を募りたいということが述べられた。理事からは基本的には賛同の意見が示された。なお、関連して入会申請方法の簡素化の必要性（電子申請など）についても意見が出された。

2. 査読記録の取り扱いについて

事務局より、日野愛郎前査読委員長からの査読システムの改修提案が紹介された。具体的には、MyJAES 上で「査読委員」の権限があると（現在は委員長と副委員長のみ付与）、過去の査読履歴がすべて見えてしまうという問題がある点である。保存期間について議論がなされたが、基本的には一定時間が経過したものについては廃棄をすべきという意見が述べられた。そのうえで、理事長より次回以降の理事会で諮ると述べられた。

以上

[目次へ](#)

事務局だより

【新入会員】

昨年度のニュース・レター発行後に入会申請が承認された方は、以下の 22 名です（申請時の所属を記載しております）。

谷口 友季子（アジア経済研究所）	西 耕平（神戸大学）
今野 洋史（新潟日報社）	寺下 和宏（神戸大学）
安中 進（早稲田大学）	出口 航（大阪大学）
岡田 葦生（京都大学）	小西 美穂（日本テレビ）
儲 然（早稲田大学）	高島 笙（東北大学）
松本 朋子（東京理科大学）	高木 顕心（同志社大学）
竹内 真雄（東京都庁）	安田 英峻（神戸大学）
米岡 秀真（山口大学）	東島 雅昌（東北大学）
渡部 亮（東京大学）	JX 通信社
趙 婉婷（名古屋大学）	川島 聖（東京大学）
谷口 隆仁（所属なし）	清水 崇仁（同志社大学）

【退会会員】

昨年度のニュース・レター発行後、2020 年度いっぱい 1 名の会員、2021 年度末に 11 名の会員が退会しました。

【現在の会員数】

上記の異動で、2022 年 3 月末日現在の会員数は、462 名（うち 11 名は 2021 年度末で退会予定、および 2022 年度入会予定が別途 2 名）となっております。

【会費の納入について】

会費は郵便振替によって納入して頂いております。口座番号と会費は以下の通りです。

口座番号

振込先（加入者名）： 日本選挙学会
口座番号： 00170-2-31731

年会費

正会員（大学院生以上）	：	8,000 円
法人会員	：	10,000 円
準会員（学部学生のみ）	：	2,000 円

会費を納入された方には、該当する年度の『選挙研究』を送付いたします。

過去の会費の滞納状況によっては、学会からの事務連絡、研究会での報告、年報への投稿資格などが停止される場合もあります。理事選挙のある年の7月1日時点で当該年度の会費が未納の場合、理事選挙における選挙権・被選挙権が停止されます。会費は、滞納がある場合、滞納分から充当していきます。

2008 年度から、滞納猶予期限 3 年を経過した会員の方には自動的に退会して頂くことになっております。2022 年 3 月末日で 3 年間会費未納の場合、2021 年度をもって自動退会扱いとなります。

なお、会費納入状況につきましては、学会 HP の会員用ページ（My JAES）でご確認下さい（<https://www.jaesnet.org/myjaes/index.php>）。

【2022 年度総会・研究会について】

2022 年度日本選挙学会総会・研究会について、予定通り、2022 年 5 月 7、8 日に石川県文教会館・金沢商工会議所会館にて開催することを 3 月 19 日開催の理事会で決定いたしました。ただし、感染、濃厚接触等の事情で現地に来られない会員もいることを考慮し、ポスターセッションの一部を除き、総会・共通論題・部会については Zoom 配信をする予定です。

なお、現地参加の場合には、新型コロナウイルス感染症対策及び自治体への補助金申請のため、氏名、居住する都道府県、電話番号を事前登録していただきます（もし感染者が出た場合は氏名と電話番号のリストを会館に提出する可能性があります。また、自治体への補助金申請のために氏名と都道府県のリストを石川県と金沢市に提出させていただきます）。

詳細については、追って「2022 年度 総会・研究会に関するお知らせ」としてウェブサイトに掲示いたしますので、そちらをお待ち下さい。

会員のみなさまと金沢でお会いできることを楽しみにしております。

【学会ホームページについて】

2009 年に学会 HP の全面的なリニューアルを行うとともに、会員用ページ（My JAES）を導入しました。My JAES では、会員情報（「所属」「役職」「メールアドレス」「生年」）・書類送付先（「郵便番号」「住所」「電話番号」「FAX 番号」（電話・FAX 番号の登録は任意））の変更、会費納入状況の確認を、会員ご自身の手で行って頂くことができますので、是非ご活用下さい。特に、書類送付先については、誤配・遅配などの原因となりますので、会員各自で随時更新して頂きますようお願い申し上げます。また、研究会での報告の応募、報告概要や論文、のダウンロード・アップロードを学会 HP で行うようになっ

ております。また年報『選挙研究』への投稿も学会 HP から可能ですので是非ご利用ください。

※※※事務局からのお願い※※※

事務局からの各種ご案内も、学会 HP やメールを活用して行うようになっておりますが、登録されているメールアドレスに誤りがある場合、配信不能となってしまいます。My JAES にて、ご自身のメールアドレスに誤りがないか、ご確認頂きますようお願い申し上げます。

【『選挙研究』の電子アーカイブ化・電子ジャーナル化について】

すでにご案内したとおり、日本選挙学会年報『選挙研究』第1号から第23号、第24巻から第34巻2号については、電子アーカイブ化が済み、独立行政法人・科学技術振興機構（JST）の J-Stage (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jaes1986/-char/ja/>) で公開されております（2012年度より J-Stage に掲載移行となりました）。是非ご活用下さい。

なお、『選挙研究』に掲載される論文等は、発行から2年が経過した後、原則として電子化されます。ご執筆頂く方々には、この旨ご了解頂きますよう、お願い申し上げます。

何かご不明な点がございましたら、事務局までお問い合わせ下さい。

【お詫びと訂正】

2021年4月に発行したニューズレターについて、2019年度決算案の数字に間違いがありました。年会費収入について3,400,000円とありますが、正しくは3,400,686円です。ここにお詫びして訂正いたします。

【事務局について】

日本選挙学会の事務局は、理事長の所属する早稲田大学に所在しておりますが、事務局長・幹事は以下の5名が務めております。学会に関する各種お問い合わせは、事務局長までお願いいたします。

事務局長：遠藤 晶久（早稲田大学社会科学総合学術院）
〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1
E-mail：office@jaesnet.org

幹 事：小川 寛貴（高知大学）
築山 宏樹（慶應義塾大学）
三輪 洋文（学習院大学）
山崎 新（武蔵野大学）

[目次へ](#)